

# 令和3年度 第1回木更津市子ども・子育て会議

## 議事録

日時：令和3年5月24日（月）午後2時00分～午後3時15分

場所：木更津市民総合福祉会館 第1、2研修室

### 次第

1. 委嘱状交付

2. 開会

3. 議題

（1）第2期木更津市子ども・子育て支援事業計画の進捗について

（2）民間保育施設の創設について

4. その他

5. 閉会

## 【議事内容】

### 1. 委嘱状交付

---

#### 事務局

○令和3年度の人事異動等により、会議委員の変更が生じておりますことから、只今より新規委員の委嘱状交付式を行います。

介添え：草苅課長

委嘱状交付者（2名）

- ① 村井 葵（むらい あおい）
- ② 柴田 克（しばた かつし）

#### 鶴岡部長

○（委嘱状交付）

#### 事務局

○続きまして、健康こども部長より挨拶させていただきます。

#### 鶴岡部長

○この子ども・子育て会議では、子ども・子育て支援事業計画の評価をしていただいております。第2期木更津市子ども・子育て支援事業計画は、令和2年度のコロナ禍でのスタートとなり、計画通りに事業が進んでいない部分もありますが、子ども・子育て支援施策が、地域の子ども及び子育て家庭の実情を踏まえて実施されているかという視点で、点検・評価をしていただきたいと思います。本市の子育て環境がよりよいものになりますよう十分にご審議のうえ、ご意見をいただきますよう、よろしくお願い致します。

### 2. 開会

---

#### 事務局

○令和3年度 第1回木更津市子ども・子育て会議を開会いたします。附属機関設置条例第6条の規定により、議長は会長が務めることとなっておりますので、平野会長お願いします。

#### 平野会長

○本日の審議会の出席委員は15名で、過半数に達していますので、会議は成立いたします。なお、欠席委員は1名です。本審議会は「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」における「審議会等」にあたることから、同条例第3条の規定により、原則公開となります。会議録は、同条例第9条の規定により、個人情報等の不

開示情報に留意して、公表することとします。なお、会議録の調整方法については、要点記録とし、発言に係る委員名は記載する取り扱いとします。傍聴人はいないとのことです。

### 3. 議題

#### 議題（１）第２期 木更津市子ども・子育て支援事業計画の進捗について

##### 平野会長

○議題１『木更津市子ども・子育て支援事業計画の進捗について』、事務局から説明願います。

##### 事務局

○計画書の施策項目の担当課から出された取り組み結果報告と、令和３年度の取り組み内容について報告をします。施策項目数が１３１事業となっており、すべてを報告することはできませんので、特筆すべき事業のみ報告をします。基本目標１の充実した幼児期の教育・保育の提供。（２）の保育環境・幼児教育環境の充実、①保育施設の管理等ですが、令和２年度は吾妻保育園の民営化に向けて社会福祉法人木更津大正会と調整を行い、令和３年４月より社会館吾妻保育園として移管しました。令和３年度は中郷保育園及び久津間保育園の民営化に向けて、移管先事業者と調整を行っていきます。②保育業務のＩＣＴの活用ですが、令和２年度、桜井・わかば保育園の２園においてＩＣＴ導入テストを行った結果、午睡管理に関しては５０％。登降園管理や家庭連絡についても３０％ほどの業務負担の軽減がみられました。令和３年度はシステム内にある機能のさらなる使用により、利便性の高い活用を行っていきます。④保育園・幼稚園等巡回相談事業ですが、子育て世代包括支援センターの発達相談事業に位置付けられ、保育園や幼稚園に在園している気になるお子さんの保育や教育に関して、発達相談員が保育士や幼稚園教諭に助言をする事業となっています。令和２年度は市内すべての園が巡回相談を希望し、対象児がいる３４園すべてに実施しました。引き続き、園の担当者、子育て支援課職員が連携し、柔軟な事業運営をしていきます。続いて、基本目標２、地域こども・子育て支援事業の推進です。①地域子育て支援拠点事業ですが、令和２年度より、うみまち保育園、さとの保育園に地域子育て支援センターが開設されましたので、市内の地域子育て支援センターが５か所となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用者は伸びませんでした。予約制とするなど、感染対策を講じて実施しました。

令和3年度は、令和4年度からの公立保育園での新たな子育て支援拠点事業の準備をすすめ、体制づくりに取り組めます。その他の事業①ファミリーサポートセンター事業ですが、リフレッシュ目的での預かりに対応するため、福祉会館での預かりを開始しました。令和3年度は金田交流センターでも実施し、利用しやすい体制を作っていきます。続いて、基本目標3、子どもの健やかな成長への支援の推進です。生涯学習課、まなび支援センター、公民館が担当課となる施策項目であり、就学以降の事業となっています。令和2年度は事業が中止となったり、縮小して実施するなど、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を大きく受けました。令和3年度も、感染動向を考慮しつつ、オンラインを活用するなどして、事業展開していきます。基本目標4、親と子の健康の確保及び増進、(1)母子の健康づくりの推進で、③妊産婦歯科健康診査、⑥新生児聴覚検査受診の普及啓発と検査費用の助成、⑯2歳児歯科健康診査事業は、令和2年度からの新規事業となりますが、市内の歯科医療機関、産科医療機関の協力のもと、順調に実施できています。④産前産後サポート事業、プレママ講座、ママ広場については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対面式講座以外にオンラインの講座も実施しました。令和3年度は引き続きオンラインを活用した講座を実施していくと共に、現在、医療機関にてマタニティ教室が中止となっていることから、市のプレママ講座はコース制とし、より内容の充実をはかっていきます。育児力向上のための支援の施策項目は、集団形式による教育事業が多く、コロナウイルス感染症の影響により、方法や手段を再検討したところです。令和3年度はオンラインを活用したり、個別でのアプローチを行うなどで事業展開をしております。基本目標5、子育てを支援する生活環境の整備、(1)子育て家庭へのサポート体制の充実です。③きさらづネウボラ相談ですが、妊娠、出産、子育て期にわたる様々な総合相談窓口として、電話や面接等で相談を行っている事業ですが、令和2年度は1312件と大幅に多くなりました。ネウボラが周知されてきたことも伺えます。相談件数が増加している中、1ケース毎に細やかなより良い支援が展開できるよう、引き続き関係部署や機関と連携していきます。⑥子育て応援スポット推進事業ですが、乳幼児を連れて外出がしやすい環境が整備されているなど、子育て世代への配慮ができる施設を応援スポットとして、登録する事業です。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、外出支援サービスを提供することが困難でしたが、令和3年度は感染症の動向を踏まえ、応援スポットの登録に向けて協力事業所へ働きかけを行っていきます。(4)子育て家庭の経済的負担の軽減は、すでに制度となっている各種給付事業となります。これらの事業については、制度の周知をしていきます。(5)子育てしやすい環境の整備、(6)

子どもと子育て家庭の安全の確保、(7) 子育て家庭の仕事と生活の調和の促進では、経済、住宅、産業分野での子育て関連施策項目となり、1期計画からの継続事業となっています。基本目標6 地域における子育て力の充実(1) 地域における子育て力の強化は、世代間交流、子ども交流事業への支援、地域の人材活用などの事業となっています。新型コロナウイルス感染症の拡大により、ほとんどの事業が中止や規模の縮小となっています。基本目標7は、援助を必要とする子ども・家庭への支援の充実です。(1) 要保護児童対策の推進では、児童虐待、DV対策事業とともに関係機関との連携を密にし、特に児童虐待の通告受理後遅くとも、48時間以内には児童の目視による安全確認を行っております。(2) 発達を支援する環境の充実ですが、健康推進課、子育て支援課、こども保育課、障がい福祉課、まなび支援センターの各課において子どもの発達支援に係る事業に取り組みます。(3) 障がい児をもつ家庭への支援、(4) ひとり親家庭への支援は、すでに制度として実施している各種手当、給付事業となっていますので、制度の周知をしていきます。以上が、令和2年度の実績結果及び令和3年度の取り組み内容の概要となります。

#### 平野会長

○進捗状況としては策定から1年目ですので、順調に進んでいるという印象を受けました。市民の皆さんに事業や制度を周知や広報活動を徹底していただきたいと思えます。ご意見ご質問ありますか。議題2にうつります。

### 議題(2) 民間保育施設の創設について

#### 平野会長

○『民間保育施設の創設について』事務局からご説明願います。

#### 事務局

○2-3の資料は、4月1日時点の、令和2年度から6年度までの木更津市の就学前児童の人口と待機児童数を示しています。R2、R3の「計画値」は計画策定当初に見込んでいた人口、「R2」「R3」は実績の人口です。令和4年以降の計画値の合計は、平成29年度から令和元年度の推移を基に推計しました。人口は今後、減少していくと見込んでいます。ただし、令和3年4月の時点では、0・1・2歳児クラスで待機児童が発生している状況です。

就学前児童の施設の入所状況について説明します。資料2-1「令和3年度市内幼稚園入園状況」をご覧ください。こちらには、1段目に市内の幼稚園、2段目に認定こども園1号認定の入園状況をまとめてあります。また、資料2-2「木更津認

可保育園施設入園状況」には、平成29年度から令和3年度まで、4月時点の入園者数を示しています。認可外保育園等に入所している児童数は把握していないため不明ですが、認可保育施設に令和3年4月時点で入所している園児数は、約2000名、先ほどの人口の表より、令和3年4月時点での就学前児童数は、約6200名であることから、保育施設には約3割、幼稚園等を含めると、約6割の児童が幼稚園・保育園等の施設に入所している状況です。過去の入園申込者数の推移等から、今後も入所希望者は増えると予想されます。資料2-4「待機児童数表」をご覧ください。年度の途中で待機児童数が増えている傾向があり、4月では100名以下であったのが、3月には200名ほどまで待機児童が増えています。令和3年度においても、4月から5月にかけて、待機児童数が増加しました。無償化の影響や、女性の社会進出に増加が要因と考えられ、保育のニーズについて、今後も増加すると見込んでいます。そのため、令和4年4月までに、新規に保育施設を開設し、待機児童の解消に努めたいと考えております。新規に開園を予定している施設については、資料2-2に表で示している、小規模保育施設4施設、認可保育施設2施設の予定です。これまで、2歳児までの待機児童数が解消されていないこと、3歳以上についても、令和2年度は年度を通して解消されなかったことを踏まえ、新たに施設を開設することにより、待機児童の解消に努めたいと考えています。

#### 平野会長

○ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

#### 宮崎委員

○認可保育施設入園状況（資料2-2）に令和3年4月の数字があります。定員の数字と実際の計を引くと、桜井が18、中郷が20、わかばが20、久津間が26、合計70という数字が出ます。これだけ公立保育園に空きがあるにもかかわらず、待機児童がいるということは、どういうことか説明して下さい。

#### 事務局

○公立保育園の枠があるのですが保育士の確保が難しく、保育士が配置できないために受け入れができない状態が続いています。

#### 宮崎委員

○職員配置がされれば、公立保育園で一気に待機児童が解消されます。職員を増やす算段や手筈を市が行っているように思えないのですが、職員を補充するための手立てを考えているのですか。

#### 事務局

○正規職員に関しては公務員になるため、増やしていくことが難しいです。会計年

度任用職員の募集をかけていますが、なかなか登録者がいません。現在、派遣保育士で運用しているところです。園の職員の人脈を使って声をかけていますが、集まらない状況です。

#### 宮崎委員

○ちなみに、社会館吾妻保育園の定員は60人と書かれていますが、実際は90人であったはずで、建物はあと1クラス分空いています。職員を増やせば30人以上入れられますので、私どもも、職員を増やす努力をしていきます。

次の質問です。浦安市と市川市の0, 1, 2歳児の入所希望者が減り始め、できただけの小規模保育施設が影響を受け、借金返済ができなくなっているという噂話を聞いています。もう一つは、子どもが減ると、民営化もうまくいかないところが出始め、近隣でいち早く民営化された青堀保育園は松戸の法人が撤退したいと言っています。このような状況がおきているということに関して、市の考えがありましたら、教えてください。

#### 事務局

○就学前児童の数は減っていくであろうと推計しています。一方、4月1日時点で、0, 1, 2歳の待機児童が90人です。また、年度末に向けて待機児童数が増えていく傾向にあり、保育を必要としている方が、必要な保育を受けられるよう、待機児童対策の一環として、施設整備に努めていきたいと考えています。木更津市は人口がゆるやかに増加しており、千束台や金田西地区の空き地供給、大型商業施設の本社移転による雇用の促進の可能性もあり、今後も就学前児童の受け皿が必要になると考えています。

#### 宮崎委員

○吾妻保育園が民営化し、2か月ほどで、市のホームページに新しい吾妻保育園の記事を掲載してもらいました。今、スマホでチェックする方は当たり前で、時を移さずに必要な情報が親たちの元に届くということが大切だと思いました。この件につきまして、市の担当の方に感謝します。

#### 堀口委員

○公立施設の民営化を社会館保育園が先駆けてやっていただき、今後、中郷、久津間保育園が民営化されます。一方、小規模保育施設が新たに開設されていくわけですが、もし民営化の公立保育園で受け入れる余地があるということであれば、職員確保を最大限に支援していただきたい。新規事業者の方がどうのこうのではなく、結果とし、将来にわたり需要と供給のバランスに問題が起きるのであれば、これはかなり、事業者にリスクなことであることは間違いのないと思います。

あと、待機児童数がどの地域に多いかわかりますか。金田地区でうみまち保育園を運営して、気づいたのですが、当初、アウトレットや大型所業施設を職場としている方が入園希望されるところだと思ったのですが、そうではなく、ほとんどが、地元の方でした。家の近くの保育園が第一希望にする方が多いようです。待機児童の地域内訳を市で把握し、どのように民間事業所の創設を誘導しているのですか。

#### 事務局

○待機児童数について、地域ごとの集計はしておらず、把握できていないところがあります。昨年度待機児童の傾向について調べたところによりますと、小学校区による地域差はほとんどなかったと認識しています。

#### 堀口委員

○待機児童がいますので、なるべく早く解消したいところでは私も一致するところですが、ただ、立地面などについても課題もあるかと思っておりますので、今後参考にさせていただけたらと思います。

#### 宮崎委員

○第一希望の園があっても、それがいっぱいの場合、他の空いている園を第一希望にしたほうが入りやすい。第一希望の方が増えれば良いと単純に考え、一生懸命保育のレベルを上げようと思っていたのですが、待機児童の数字に関しては、必ずしも反映していません。家の近くの保育園を希望する考え、職場に近いほうが良いという考え、良い保育園にいくんだという考えの3つの選び方があり、待機児童100名の数字を分析するのは難しいのではないのでしょうか。少なくとも、第一、第二希望くらいをチェックしてみれば傾向が出るかもしれません。保護者は、入れなくても一時預かりという形で頑張ることは可能です。誠実に保育の質を上げるしかないと思っています。吾妻保育園は、定員に空きがあるにも関わらず、4月以降、希望者がいません。待機児童が100名もいるのに、どうしてなのか、私には説明ができません。民営化されて1か月で結果が出るのとは間違っていますので、やることを一生懸命行い、結果が出るのは3年後と思っていますが、悩ましいです。

#### 事務局

○待機児童について、保護者の仕事の都合、ライフスタイル、それぞれの事情に合わせて、園を希望されていく中、定員に満たないところ、超えてしまうところがあると、十分認識しております。このような施設もあるという形の広報活動など、市のほうでできることについては、行っていきたいと思っています。

### 重城委員

○募集した段階で、どの園が空いているという情報は、保護者に入るのでしょうか。

### 事務局

○お問合せがあった場合、わかる範囲で、お伝えするようにしています。

### 重城委員

○それを公に出すということは難しいですか。4月の段階で、入れない人は、二次募集で他の空いているところに行くシステムですか。

### 事務局

○4月入園の場合は、第一希望を優先に判定させていただき、第一希望に入れなかった場合には、第二希望、第三希望で、保育の必要性の高い順にご案内していくという方法をとらせていただいています。

### 平野会長

○市のホームページ等で、そういう情報を流すのは行き過ぎかと思いますが、少なくとも入園手続きに来た際、入園可能数何人という、表のようなものを窓口を用意して、どの園が受け入れ可能かという情報を流すべきでないでしょうか。待機児童問題は様々な問題が絡んでいますが、認可保育園に空きがあるにもかかわらず、新しい保育施設の増設が必要なのでしょうか。小規模事業者が仮に運営が困難になり、撤退した場合の在籍している児童の所属の問題については、全国でも事例が上がっています。2.3%減で出生数の推計を出しており、今の待機児童を0にするために、認めた小規模保育施設や、認可保育園の運営が厳しくなったときに、どのように行政は責任をとるのでしょうか。公立保育園の民営化については、平成17年から市で議論が始まり、待機児童の解消も、将来的な視野の中に入っており、民間の活力によって、市民サービス、特に保育行政の向上というのが、大きな一つの目的になっていたことも改めて、考えていただきたいと思います。吾妻保育園が4月以降、申し込みがないとのこと。社会館保育園は歴史があり、保育理論に基づいた実践を重ねているすばらしい法人です。それだけの実績を持った法人さえも空いていることを深刻に受け止めていただければと思います。まず空いているところを埋め、なお足りなければ、創設について議論しても遅くありません。民営化の議論が始まって、今年で7年になり、やっと実現できた民営化の効果を確かめることなく、事を進めていくのは、不安があります。事務局に確認しますが、民間保育施設の創設については、事業計画の変更を伴う事案です。本日は事業計画の変更が議論にあがっておりませんので、本日は新たな民間保育施設の創設について、希望が出ているという紹介という認識でよろしいでしょうか。

## 事務局

○創設を予定している、民間保育施設につきましては、希望が出ているという報告をさせていただきます。待機児童対策につきましても、保育の在り方、需要を踏まえた上で、必要な提供量を見込んで進めていくべきであるということは、十分認識しているところです。こども保育課では、出生数、就学前児童数の推計、それに必要な保育の提供量の見込み、施設整備、公立保育園の在り方など、待機児童対策に関する基本的な方針を取りまとめているところですので、これにつきましては、次回の子ども・子育て会議で、皆様にお伺いしたいと思います。

## 宮崎委員

○小規模事業所の撤退で問題になるのは、私は借金をして、建てるのが問題だと思っています。借金をした場合、収入からどれだけ返済して、何年で返済できるのか、できれば借金をせず建てることを、チェックした方が安心だと思います。小規模保育施設は資格のない方でも雇用できるので、人を集めやすい面がありますが、職員の人数が少ない大変さを吾妻保育園を運営し、感じています。定員が50、60人だと、職員が10人くらいしかいません。職員が少ないと、朝7時から夕方7時まで、土曜日6時半まで、人員のやりくりが難しく、結果、園長にしわ寄せがってしまう、ということがおきています。そういう現実の運営の上で、小規模保育施設が持っている、厳しさもあります。始めたい方々は熱気でいっぱいでしょうけれども、そのようなことも伝えていただきたい。

## 平野委員長

○新しい小規模事業所に様々な資料を求めるとはと思いますが、特に財源面については、資料として提出いただいたほうが良いというご意見かと思えます。

ご意見、ございますか。もう一度、議題1についてのご意見もいただきたいと思えます。

## 白石委員

○コロナ禍で子育て支援事業も行き詰まりを感じる場面があります。最近になって、子ども達も感染するんじゃないかという話が出てから、赤ちゃんの利用が減ってきています。一方、どこにも行けないというお母さん達もいて、両極に分かれています。ゆりかもめは予約制をとりながら、開けており、予約が毎日埋まり、利用者がすごく減っているという状況ではないのですが、他の施設が閉めている状況が多い中で、今後、公立保育園が支援センター機能を持つことに期待をこめ、どんな状況下にあっても閉めない、最後の砦となってくれるような施設を目指

していただきたいと思っています。

#### 藤平委員

○進捗状況をお聞きして、こういう事業もあるんだなあと、知らないことばかりでした。もっと、広報活動に力を入れていただけるとありがたいと思いました。

#### 桐谷委員

○金田幼稚園、畑沢幼稚園が巡回相談でお世話になっております。令和2年度は巡回相談をほとんどの園が希望し、34園、390名と、希望園が増えています。やはり、園児一人一人の困り感が増えていると思っています。今年度、園に巡回に来ていただける回数が一昨年よりだいぶ減りました。巡回相談は木更津市の特徴のある施策ですので、人員を増やしていただき、巡回の回数を増やしていただきたいと思っています。もう1点は、日本語の話せないお子さんが入園を希望しています。どのように対応しようか悩んでいるところです。

#### 平野委員長

○確かに、外国のお子さんの入園希望も若干目立ってきており、両親が話せないという方もいます。例えば通訳を派遣して、支援をしていただけることは、考えられますか。

#### 事務局

○市内に野の花の家が行っているヴィオラという施設があり、タガログ語、英語、ベトナム語が話せる方がおります。その方達は、家庭を支援したり、相談にのってくれています。もしそういう方がいましたら、ヴィオラに直接相談していただくか、ネウボラにご連絡いただければ、間を取り持ちますので、相談して下さい。

#### 平野委員長

○そういう情報を、こういう場所がある、こういうしくみがあるということを、どんどん広報してください。私の個人的な意見ですが、ネウボラは、進捗状況の項目を見るとあらゆる活動をしていて、忙しくなるかと思います。ネウボラ、子育て支援課がもっと活発に活動できるように、人員の確保をお願いします。

事務局、連絡ありますか。それでは、第1回子ども・子育て会議を終了いたします。

(閉会)